



京都大学国際融合  
創造センター教授  
澤田芳郎さん

産学連携が注目され、実際に活発化してきたこの10年の間に、二つの大学観が際立つようになってきました。第1の大学観は大学を一種の企業と

この二つは産学連携の現場でいわば「衝突」しています。企業側が第1の、大学側が第2の大学観を持つとは限らず、企業と大学で大学観が一致

する時としない時があります。一致すれば、いずれの大学観のもとでもそれぞれ有意義な産学連携業と組むなら全体として

## 二つの大学観

# 次代を つくる

が成立しますが、一致しない場合はさまざまな問題が起こります。大学は「企業」だという前提で投資した企業が研究の品質管理に不満を持つケース、逆に大学が知的財産権を主張するわりには弱

点が多いと考えざるを得ないケース……。大学観はいろいろあってもある程度やむをえない

大学観はいろいろあってもある程度やむをえない

大学観はいろいろあってもある程度やむをえない

みなします。すると大学は経済原理に導かれ、設定された経営戦略に照らして資源配分が行われるべき場となります。第2の大学観は大学自体は富を生まないと考えます。そこではトップダウン的な組織運営は不要とされ、学問の平等性を重視されます。

題字は堀場雅夫・堀場製作所最高顧問

さわだ・よしろう 1954年大阪府生まれ。京都大学農学部卒、教育学研究科修士課程修了。未来工学研究所研究員、京都大学助手、愛知教育大学助教授、教授を経て、01年京都大学国際融合創造センター教授。

毎日新聞(大阪本社)夕刊  
2007年6月12日